

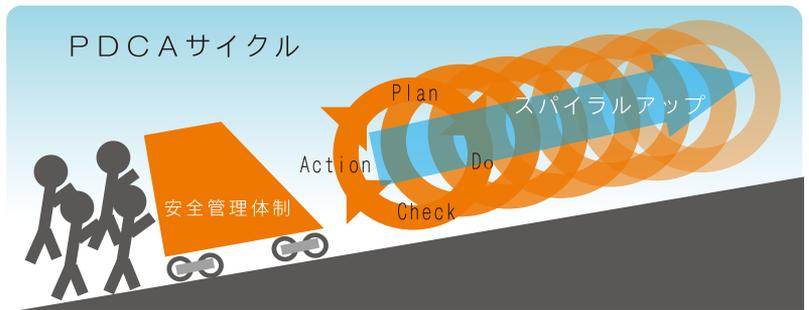
# 3. 重点安全施策の内容と進捗状況

## 3-1 安全意識の高揚・安全対策

### 3-1-1 「安全意識」を醸成するための取り組み

#### ◎PDCAサイクル

安全最優先の意識を徹底させるため、計画(Plan)→行動(Do)→確認(Check)→改善(Action)→新しい計画(Plan)の浸透定着を図り、現場までが一体となってPDCAサイクルを機能させています。また、毎年度、年度計画(Plan)→実施(Do)→内部監査(Check)→年度計画実施結果見直し(Action)→次年度計画の策定(Plan)のPDCAサイクルで各種安全施策を進めています。特に、PDCAサイクルの根幹となるのが確認(Check)であり、各人のチェック能力の向上を図る施策を進めています。



#### ◎法令遵守の徹底

日頃から、コンプライアンスセミナーや教育において法令の遵守徹底を図っています。また、社内規程の他、関係する法律等に対しては、官報や局通達を確実に確認する体制をとっています。さらに2011年度からは、輸送の安全管理に関する規程の中で、各部門が連携する必要がある規程の変更については、安全管理推進委員会の議題で取り上げ、内容確認と周知徹底を図っています。

また、薬物乱用に対しては、特別安全講習会においてテーマとして取り上げる他、啓蒙啓発を行い、再発防止を徹底しています。その他、交通法規等、社会のルールについても、全国交通安全運動等の各種運動等を通じて、意識の高揚を図っています。



#### ◎安全意識調査

輸送の安全に対する各施策や教育訓練において、各人あるいは各職場において、その効果を客観的に把握するため、2009年度に初めて安全意識調査を実施しました。その結果を分析し、2010年度はその改善に取り組んできました。2011年度は、第2回の安全意識調査を実施し、定量的把握と前回比較による各種施策の効果検証を行う予定です。

第1回と同様に、阪急電鉄だけでなく、本部内グループ会社の社員に対しても実施することにより、輸送の安全に関わる係員一人ひとりまで、課題を抽出して、改善に取り組んでいます。

第7部 安全意識について		1	2	3	4	5	平均	標準偏差
<p>「安全意識」についてお問合します。</p> <p>A 貴のことは貴身のみなりなどの程度までではありませんか。あてはまる程度を1つ選んで、該当する数字に○印をつけてください。</p> <p>ほどよいも判断がつかない場合のみ、「○わからない」に○印をつけてください。</p>								
<p>【安全意識・意識】</p> <p>1. 安全の重要性が理解できている(2009年11月)とは同じ、安全に対する意識、安全責任感が強固、はたしてしていますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>2. 安全の重要性が理解できている(2009年11月)とは同じ、安全に対する意識、安全責任感が強固、はたしてしていますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>3. 安全の重要性が理解できている(2009年11月)とは同じ、安全に対する意識、安全責任感が強固、はたしてしていますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>4. 安全の重要性が理解できている(2009年11月)とは同じ、安全に対する意識、安全責任感が強固、はたしてしていますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>5. 安全の重要性が理解できている(2009年11月)とは同じ、安全に対する意識、安全責任感が強固、はたしてしていますか。 1 2 3 4 5 *</p>								
<p>【ヒヤリハット等】</p> <p>1. あなたの職場は、ヒヤリハットを発生しやすい環境にありますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>2. あなたの職場は、ヒヤリハットを発生させやすい環境にありますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>3. ヒヤリハットを発生させ、乗客の安全に影響を与えていますか。 1 2 3 4 5 *</p> <p>4. ヒヤリハットを発生させ、乗客の安全に影響を与えていますか。 1 2 3 4 5 *</p>								

◎安全講習会・安全講演会等

輸送の安全に関するテーマをもとに、社外から講師を招いて講演やセミナー等を実施し、安全意識の高揚を図っています。2010年度は、下記のとおり実施しました。2011年度も引き続きテーマや内容を変更して実施し、社外の有識者からご教授ご助言いただき、各種安全施策を強化していきます。

安全講習会



日 時 2010年7月14日(水)  
 場 所 阪急電鉄 本社エコルテホール  
 講 師 国土交通省大臣官房 安全監理官室  
 首席運輸安全調査官 峰本健正 様  
 テーマ 運輸安全マネジメントの進捗と優良事例のご紹介  
 聴講者 約200名

安全講演会



日 時 2010年9月2日(木)  
 場 所 阪急電鉄 本社エコルテホール  
 講 師 JR東日本パーソナルサービス 関口雅夫 様  
 テーマ 「事故の失敗から学ぶ 仕事の原点とは何かを問う」  
 聴講者 約200名

特別安全講習会



日 時 2010年6月30日(水)  
 場 所 阪急電鉄 本社ビル 603会議室  
 講 師 ビア・ドラッグカウンセラー 倉田めば 様  
 テーマ 「ドラッグ問題とその理解」  
 聴講者 約70名

### 3-1-2 情報伝達・共有化の取り組み

#### ◎安全管理推進委員会における情報伝達協力体制

輸送の安全に関する様々な情報は、下図のような仕組みで共有化しています。



#### ◎情報伝達とコミュニケーションの充実

経営トップ	経営管理層	現場管理者層	現場監督者層	係員層
全社安全管理推進委員会				
	本部安全管理推進委員会			
	各部門安全管理推進委員会			
フリーディスカッションミーティング(社長)				
	フリーディスカッションミーティング(本部長)			
ランチミーティング(社長)				
	ランチミーティング(本部長)			
		マネージメントエリアミーティング		
		ナイトトーク		

#### 安全管理推進委員会および巡視時の意見交換会

安全管理推進委員会や社長および都市交通事業本部長等の巡視には、現場の実状把握の他、経営管理層から現場管理者とのコミュニケーションを充実させて、風通しのよい社内風土作りに努めています。



#### FDM(フリーディスカッションミーティング)

社長や都市交通事業本部長等は巡視以外にも積極的に現場へ赴き、テーマを設けず意見交換を行う「フリーディスカッションミーティング(FDM)」を実施しています。このFDMでは、業務に関わらずレクリエーションや日常生活に至るまでテーマを限定せず、また職位や部門に関係なく円滑なコミュニケーションの促進に向け取り組んでいます。



### LM(ランチミーティング)

2010年度から、さらなる風通しのよい職場風土を目指して、各種巡視時において各部門あるいは現場の社員と昼食を交えながら、コミュニケーションを深めるLMを始めました。その内容は、輸送の安全に関わる部分だけでなく、社長や本部長のプライベートに関する部分まで及ぶこともあります。



### MAM(マネジメントエリアミーティング)

マネジメントはトップダウンのもと行われますが、現場の安全の維持向上には各部門の現場間の意志の疎通と協力が不可欠であるため、2010年度から運転・土木施設・電気施設・車両の各部門の現場を西宮・十三・正雀のエリアに分けて、横断的な意見や情報の交換を充実させる取り組みを始めました。



### ナイトトーク

都市交通事業本部長や各部門長等は、部下とのコミュニケーションをさらに充実するため、各部門の係員とざっくばらんに意見交換する機会を適宜、設けています。

### ◎グループ各社との情報の収集と活用

関係各社との連携と安全輸送の強化を図るために、運輸安全に関わる情報の収集と共有を実施しています。

### 安全管理推進委員会 幹事会

当社グループの各鉄道事業者4社を交えて、毎月、情報交換と共有化を図っています。

### グループ安全関係情報連絡会議

当社グループの各交通事業者(鉄道・バス・タクシー・船舶)の9社を交えて、運輸全般の各種方面での取り組みを共有化し、各社の取り組みの強化に活用しています。



### ◎外部情報の収集と活用

国土交通省の情報以外にも、事故や運輸安全マネジメントに関係する情報を下記の会議体にて情報交換を図り活用しています。

### 安全情報連絡会議

全国の大手民鉄及びJR数社が自主的に情報交換する会議です。当社も第2回から参加して、法規や事故情報を始め、事業継続計画(BCP)や東日本大震災あるいは東南海・南海・東海地震の同時発生等に関する津波対策等に至るまで、輸送の安全に関する課題に対する情報共有を進めています。

### 関西安全担当者情報連絡会議

関西における地域情報の収集や連携の強化を目指して、大手民鉄だけでなく公営各局やJRの他、相互直通乗入をしている鉄道事業者と情報交換を実施しています。

## 3-1-3 教育・訓練

## ◎運輸安全マネジメント教育

運輸安全マネジメントが取り入れられた経緯やその背景の他、安全管理規程や年度毎の安全計画の内容やスケジュール等、輸送の安全に係る教育計画を策定して、計画内容の周知徹底を図り実施するよう取り組んでいます。また、各部門でも運輸安全マネジメント等に関する各種教育を実施しています。運輸安全マネジメントに関連する教育は下記のとおりです。

## 基本教育

社長および役員以下、都市交通事業本部員に対して、運輸安全マネジメントの導入の経緯や背景を学ぶとともに、安全管理規程や内部監査の仕組みの他、年度計画を学習するカリキュラムです。



## 出前教育

基本教育の他、運輸安全マネジメントや内部監査に関わる教育を各現場や職場に赴き実施する教育です。2010年度から開始しています。

## 階層別教育

役員や経営管理層、あるいは管理者や責任者、また現場の監督者や乗務員係員等の職位に対する階層と、運輸安全マネジメントや安全管理規程、安全計画等、カリキュラムに対する階層に分けて、教育を開始する予定です。

## 内部監査員教育

鉄道総合技術研究所の講師が実施する内部監査員教育を修了した委員会の事務局員が講師となり実施する社内向けの内部監査員教育です。安全統括管理者以下、内部監査を実施する者は全員受講し、内部監査に関わる知識や技能を修得しています。

## ◎コーチングセミナー

コミュニケーションや指導の能力を高めるため、現場の核となる監督者を対象にしてコーチングセミナーを開催しています。また、教育終了一定期間後にフォロー教育を実施して、その効果を高め持続させています。

## ◎外部教育及びセミナー

安全管理推進委員会の各担当者や各部門で内部監査の実施やその補助を行う担当者は、社外で開催される様々な教育やセミナーを受講し、それぞれ社内教育へと展開して能力向上に努めています。

- ・ ガイドラインセミナー
- ・ 内部監査セミナー
- ・ リスク管理セミナー
- ・ 内部監査者及び管理者研修



◎運輸部教習所・人材育成センター

当社は、動力車操縦者（運転士）や車掌、助役等を養成する教習所（国土交通省認定）と、駅業務やサービス教育で質の高い駅係員を育成する人材育成センターを設置しています。また、当社の教習所は、他の鉄道事業者の乗務員の育成も行っています。



◎技術系各部門の新入社員教育

技術系の各部門では、4月から数ヶ月間、机上による教育と現場での見習いを経て、各職場での実戦経験の中で知識や技術あるいはノウハウを習得させて、育成を図っています。



◎技術研究及び技術向上

・運輸部門…車内案内放送コンテスト

実施日…2010年11月5日（金）

場所…本社エコルテホール

概要…「お客様にわかりやすい放送を追及すること」を目的に、基本放送や異常時の放送等、車内案内をテーマとしたコンテスト。

・運輸部門…接客サービスコンテスト

実施日…2011年2月23日（水）

場所…池田市民文化会館（アゼリアホール）

概要…「接客レベルの維持向上」を目的に、「好感の持てる接客姿勢・態度・言葉遣い」「駅の美化」「犯罪防止」を意識した営業関係の取り扱いやご案内をテーマとしたコンテスト。

・土木施設部門…保線作業コンテスト

実施日…2010年11月12日（金）

場所…西宮車庫

概要…保線の係員を対象として、教育効果の検証や技術の伝承、線路保守作業の習熟度を確認する目的でグループ会社と合同で実施した技能コンテスト。



- ・電気施設部門…電路技能競技大会  
 実施日…2011年5月27日(金)  
 場所…歌豊教習所  
 概要…若者の育成・技術伝承、電路技能向上を目的として、チーム対抗にて電路技能を競う技能競技大会を開催。



- ・車両部門…技術研究発表会  
 実施日…2010年11月5日(金)  
 場所…運輸部教習所  
 概要…調査・研究の成果や技術習得と技術水準の向上を目的として、定例的に開催。また、技術の伝承を目的として、経験豊富な先輩社員の苦労話や技術論の講演会も実施。



◎都市交通事業本部合同訓練

各部門の連携した対応が求められる大規模災害や事故を想定して、都市交通事業本部合同訓練を実施しています。2010年度も社長自らが陣頭指揮を取り、警察及び消防のご協力のもと、下記の通り実施しました。

- ・日時 2010年9月10日(金)
- ・場所 京都線 桂車庫
- ・目的 鉄道テロに備え、警察・消防との合同による情報伝達訓練ならびに避難誘導訓練及び救急救命訓練を実施し、緊急事態発生時の体制を磐石にすることを目的とする。
- ・想定
  - ①APEC大臣会合開催における警戒体制中、在阪鉄道事業者の鉄橋が爆破される。
  - ②京都線の列車・駅・線路に爆発物や有毒ガスによるテロを予告する電話あり。
  - ③物集女～川岡下三番踏切間の線路脇に爆発物と見られる金属製の箱を発見する。
  - ④京都線の列車に有毒ガスによるテロを実施すると犯行を予告する電話あり。
  - ⑤桂駅第一場内信号手前の列車の1両目で不審物から有毒ガスが発生する。
  - ⑥運転士は緊急停止の処置をとるも意識不明。河原町方1両目の乗客数名が負傷する。
- ・被害
  - ①お客様(軽症5名)・運転士(重症)
  - ②車両 有毒ガス汚染
- ・訓練 情報伝達訓練 列車及び駅(お客様の救出・避難・誘導)
- ・協力 京都府警・京都市消防署
- ・参加者 約200名

